## 令和5年度 学校自己評価表 廿日市市立四季が丘中学校

## 学校教育目標 「ともに学び自ら伸びる~自他尊重~」

	子仪教育日標 「ともに子の日5仲の令~日世早里~」							自己課価 学坊即係未報係						
	中期経営目標	短期経営目標	評価項目·指標 目標値 昨年度			中間値 最終値 達成度 評価			評価	結果と課題の分析	学校関係者評価コメント	改善方法		
確かな学力・体力	生徒が主体的に 学ぶ数容を推進 し自分の考えを 表現であわた 育成する。(主作 版)	【主体性と表現力の育成】	性と表現力の育成】	「話し合い活動に自ら進んで参加して自分の考えをもったり、伝えたりすることができている」と 回答する生徒の割合(授業評価アンケート) ・「四季・授業スタイル(「めあて」」と「援り返り」、 等習規律の徹底)」を実践している」と回答する	90%	82%	85%	84%	93%	В	○四季中接秦スタイルも定着し、投棄やSHRに設定されているテイスカッションの取梱で、生徒にとっては、個別、で考えら、中の・川・リループリアを見の交流をする」という流れは自然なものになっている。今日人ブリは、書くことが手手な生様によっては自分の意見を表現しゃすい方法になっている。 参見を高しめう活動にとどまうず、お互いの考えを 参見を高しめう活動にとどまうず、お互いの考えを	・確かな学力の基本である学ぶ環境ができていると思った。褒めるに値する授業 態度である。一方で、真面目に聴くだけ ではなく、授業の中で自然にディスカッションをする雰囲気づくりをしてほしい。	・四季中授業スタイルも定着しており、生徒にとって自分の意見を言ったり、交流しあうこと自体は授業でも行事でも自然な流れとして抵抗なく行っている。現在行っている交流から、お互い疑問を持って質軽応等したり、それぞれの意見から	
		・ 改善を行う。 に本質的に問い」による授業改善を 能める。 多がアイスカッションによる思考の深化を 図る授業ではから行う。 の質成 ②・アイスカッションによる思考の深化を 図る授業が思からはもまませる。 ②・アイスカッションによると思える。 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによるが思知能 ②・アイスカッションによると思える。	学普規律の徹底」を実践している」と回答する 教師の割合(教職員アンケート) ・「四季中ディスカッション及贈表」を活用して思 考の深化を図る投棄づくりを行っている」と回答 する教師の割合(教職員アンケート)	80%	50%	67%	65%	81%	В	●意見を言いあう活動にとどまらず、お互いの考えを 聞きあい意見を深めていくことが今後の課題である。	・ディスカッションを深めるには指導力が 大切である。 ・ディスカッションを取り入れたことで、 生徒の表現力が高まっていると思う。継 続して取り組んでほしい。ディスカッショ ン自体が目的にならないよう、必要性の ある話し合いの場づくりに努めてほし	る では、 できない。 できない		
		小中一貫教育による主体的 な学びをさらに前進させる	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	「ICTを活用している」と回答する教師の割合(教職員アンケート)	80%	75%	78%	70%	87%	В	○校内研修を進めながら、各教料で使用する頻度も高まった。また、授業評価や時間書連絡、教料課題など、 様々な場面で使用するようICT担当を中心に進めて いる。	い。 ・話し合い活動、ディスカッション、ICTの 活用等の取組が、どれくらい学力調査の 結果に有効なのか興味がある。学力調査	・クロムブックを活用することで、用紙にはなかなか割けない生徒もアンケート形式では減極的に衰見や吸激を綴つている。しかしそれに頼りすぎると「書くこと」がおろそかになりがちである。互いのバランスを考えながら取組ませる必要がある。	
向上		⑤ブロジェクト型学習による「ふるさと 再発見学習」を進める。 ⑥「生き万字部」により主体的に進路 を選択する力を育成する。		学力調査の「思考力・表現力」の問題の通 過率 (1月実施の学力調査問題による)	5教科 中4教 科全国 平均以 上	1年 2/3教 科 2年 5/5教 到	1年 2/5教科 2年 4/5教科	75%	75%	С	1学年では全国平均を超えた教科は国、英の2教科。2 学年では国、社、数、英の4教科となっている。問題文 自体が長くなり、理解できなかったりあきらめてしまう 生徒もいる。同時に基本的な知識向上と定着も課題で ある。	向上につながっているのかということが 気になるところではないかと思う。 ・ICTの活用について学ぶことが多くあ	・表現するための基礎基本の知識をいか に定着させるかが緊急課題だと思われ る。家庭学習の取組時間とも連動する部 分である。	
				・「自分の将来のことを考えている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート) ・「自分の思いや考えを相手に伝えること	85%	74%	78%	79%	93%	В	○今年度は職場体験学習も再開し、生徒にとっては 「働く」ということについて考える大きなきっかけと なったと思われる。 ○いろいろな場面で「毎日を交流する」という活動が	り、本校の参考になった。 ・スマホをICT教材として活用していた だきたい。使用ルールをしっかり決めて、 スマホ教育もプラスしていただきたい。		
L			①-ア 生徒が主体的に取り組み、お互いに感	ができている」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	85%	80%	85%	81%	95%		○いろいうな場面で「意見を交流する」という活動が 定着してきたため、生徒自身は伝えられていると感じ ることが多いのではないかと思われる。 ○校則については、昨年度主体の之間についてディ	<ul><li>・子どもたち同士でよいところをほめあ。</li></ul>	・大きな行事は生徒会執行部を中心	
	生徒一人一人が 自分の良さや可 能性を認識し、互 にい認め合い、 協働しながら課題を解決すること のできる力を可 成する。(協働性 と自己 有用感の 育成)	【協働性と自己有用感の育成】 ①人とつながることのできる生徒を育成する。 ②小集団(班)から大集団(学年・縦割り)までの組織的な活用を進める。	①→ア 生徒か主体的に取り組み、おさいに懸 謝を伝えるったり、評価し合ったりする場の設定 ①→イ「時を守る」「場を清める」「礼を正す」(四 季中三大規律)を生徒が主体的に実践する委 員会・係活動の充実	「学級活動、行事、係・委員会活動などに前向き に取り組んだ」と回答する生徒の割合 (生徒アンケート) 「四季中三大規律」に関する項目に肯定的な回	95%	96%	95%	94%	89%		スカッションしたことで、意識をする雰囲気が高まった。「文書にない」ことについて、中学生としてふさわしいのか、本当に必要なのかと考えていけるような集団まで高めていきたい。 〇縦割り活動の完全復活や、行事での小学校や地域と	う取組をしてはどうか。簡単で身近なよ い取組のアイディアが先行事例であれ ば、参考にしてはどうか。	に、学年のことは班長会などを中心 に、それぞれの取組に対して、自分 たちで計画を立てて実行する機会 を増やしていく。	
			①・ウ 生徳のディスカンションを経生生性指導 規程によるモルルの主体的な実行 ②・ア 生徒会行事等におけるリーダーを中心と 比主体的な活動の実施 ②・イ 実学年展前り班でのリーダーを中心とした主体的は活動の実施 ③・フ 学年担任制を生かした教育相談体制の 3・フ 学年担任制を生かした教育相談体制の 3・プ グロンボールに対策を見会の機能化 (組織的対応) ④・ア SSRにおける指導・技術デー体体制の 一層の充実 ④・イ オンラインと紙媒体を併用したコゲトレの 実施によるで多校の未然防止の取組の充実 ②・イ オンラインと紙媒体を併用したコゲトレの 実施によるでき校の未然防止の取組の充実 多年になるできなの未然防止の取組の元実	「松川を守るよう意識している」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	-	96%	98%	100%	А	図像割り活動の完全復活や、行事での小学校や地域と の連携の中で、「生徒に任せる」ことを達めていった結 来、協働的に活動する姿か多くみられるようになっ た。 検技や運刻について、意識が高まるように家庭と連 援して取り組んでいく必要がある。 令行事や係の仕事が多く、教員に言われることをやる	・特別活動は計画段階から生徒に委ね、 自主的な活動となるよう工夫してほしい。 ・生徒が主体の活動を仕組むことや、しっ かりと認め、ほめてあげることが大切だ	・委員会や係の仕事を精査し、集団 作りにつながるようにする。	
豊かな心		小中一貫教育による協働性と 自己有用感の醸成		「友達や先輩後輩と協力するのは楽しい」と回答 する生徒の割合(生徒アンケート)	90%	91%	92%	91%	100%	,,	●行事や係の仕事が多く、教員に言われることをやる だけになっているので、前向きこなれない現状があ る。内容を精査して、より生徒主体で行えるように改 審して、やる気を引き出したい。	かりと認め、ほめてあげることが大切だと実態した。 ・生徒アンケートを見るといずれの項目 も肯定的評価の割合が高いのが3年生に なっている。校則の改正について、自分		
		③いじめを許さない心の育成とかかわ り合いを深める学級・学年づくりを行 う。		自己有用感・自己肯定感に関する項目に 肯定的な回答をする生徒の割合	90%	88%	85%	87%	97%		○地域や保護者の方に協力を頂きながら、生徒主体で 実施し、学校外の方から感謝されたり、褒められたり する機会か多いことで、自己有用感を高めることがで きた。 ○「生徒に任せる」ことを少しずつ広げてきた。そのこ とで、お買い「感謝が生まれ、白戸名田職を感じる場	たちが主体的に考え議論を重ねた経験 を積んだことで、責任感が芽生えて、自 覚を持って学校生活を送っている姿が想 像できる。	<ul> <li>・地域との連携をより密にして、関わりを持った活動をする。</li> </ul>	
		④不登校生徒等へのスペシャルサ ボートルーム(SSR)担当教師と特別支 援教育コーディネーターを中心とした 支援体制を整備する。		(生徒アンケート)	90.0	00.1	60.6	67.0	57.6		とで、お互いに感謝が生まれ、自己有用感を感じる場面も増えてきた。 ●学校や学統の中心となる人は、感謝される場面も多いが、自立たないところで頑張っている人にまだスポットが当たっていない、生徒相互の表彰状制度を始めているが、定着には至っていない。	・四季中の子どもは素直に育っていると 思う。将来、高校や社会に出てから傷つ かない心が育てばいいと思う。		
	働き方改革を進き め、子が関係を 子が開版と数 に協議で は協議を 高り はなる で を を で を を を を を で の に は は の を を を で の に は に は の を の を の を の を の を の を の を の を の を の	【働き方改革の推進】 ・学年担任制の利点を生かし、子ども と向き合う時間を確保し、親身になっ て生徒に関わる組織を確立する。 ・職場環境の整備と教職員の意識改	①働き方改革による教育の質の向上 ・協働の職場風土の値成 ・業務の平単化とOUTの進進 ・空報からの発信 ・定期的な平型がよりの発行 ・不一学生、温能だより、保健デよりの発行 ・アイス・温能だより、保健デよりの発行 ・PTAに動の上来改善、保護者満足度の向上 ・地域や空標・一学校連雲協議会の機能化 ・地域学校協働活動の充実	・「時間外勤務45時間超」にならない職員の割合・「四季が丘中学校は働きやすい職場だと	75% 80%	66%	61%	66%	87% 100%	В	●勤務時間外の在校時間が45時間以上の人数が最 も多かったのか10月で19名中11名であった。文化を といった大きな字段行事を行う場合はそうしても勤務 時間外の在校時間が増える傾向がある。 〇働きやすい観響である理由として、「前のきに学習 に向かう生徒が多い。「授業研究や授業改善をすすめ やすい。」という意見があった。	・学校全体で働きやすい職場づくりに取り組んだ成果が表れていると思う。 ・アンケートの結果が上昇していて、とて もいい方向に向かっていると思う。外部 へ向けて、しつかりと説明されている成	- 不祥事を防止するため、風通しのよい 職場づくりを目指し、服務研修を適切に 計画的に行う。	
信頼さ		革を推進する。  【鏡極的な情報発信】 ・鏡極的な情報発信と行い、保護者・ 地域の学校への理解を深めるととも に、協働関係を深めるととも		思う」と回答する教職員の割合 - 「学校の様子がよく分かる」と回答する保護者の割合	85%	74%	71%	81%	95%	В	やずい。」という意見があった。 ○「学校の様子がよく分かる」という項目で肯定的な 評価をした保護者の割合は10ポイント改善した。投業 参観や学校説明会を行う等の取組が功を奏したと考	<ul><li>・学年担任制だからこそできたことを しっかりと紹介していくことが大切に</li></ul>	・学校通信やホームページ等で、生徒の 取組の様子を発信し、本校の教育活動へ の理解を得ることができるように努め	
れる学校				・「四季が丘中学校で学ばせてよかった」と 回答する保護者の割合(保護者アンケート)	85%	79%	76%	82%	96%	В	えらえる。 〇「四季が丘中学校で学ばせてよかった」という項目 でも肯定的な評価をした保護者の割合は6ポイント改 審した。引き続き構築的な情報発信を行うとともに、 発信の方法も工夫していく必要がある。	なってくるのではないかと思う。	<b>ె</b>	
		【地域連携、地域貢献】 ・地域の学校として地域の力を学校に 積極的に取り入れるとともに、地域と 協働し、生徒の地域資献を進める。		「四季が丘中学校は、地域の学校として地域の力を学校に積極的に取り入れるとともに、地域と協働し、生徒の地域資脈を進めている」と回答する地域関係者の割合(学校関係者アンケート)	90%	100%	-	100%	100%	А	○アンケートでは肯定的な評価をいただくことができた。 た。 (255かと言えばそう思う」という回答が「そう思う」 になるよう、思想連携、思境関数の政規をできるところから異体的に進めていく必要がある。	・忙しい中だと思うが、地域との今以上の関わりが信頼につながっていくと思う。 ・防災学習で地域の人が生徒に関わり、 定着していき、地域の子どもを地域が育 てる風土が広がるとよい。	<ul> <li>・防災教育をどのように進めていくか、 地域と連携し、中学生が地域に貢献できるよう取り組んで行く。</li> </ul>	
	「協働し、主体的 に学ぶ児童・生 徒の育成」	「小・中共通テーマ」 協働し、主体的に学ぶ児童・生徒の育成	・本質的な問いによる授業改善 ・合同授業研究、合同教育研究会の実施	課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組む児童生徒の割合(生徒アンケート)	85%	76%	82%	82%	96%	В	○教料の課題も一問一答のドリル的なものから、自分 の考えをまとめたりするレポート的なものが増えてき た。「考える」という作業が、生徒にとっては一般的に なってきたことが大きな要因だと思われる。	・家庭学習が定着していないのは「しなく ても大丈夫」だからなのではないか。家 庭学習の必要性、効果を子ども自身に感 じさせる必要がある。	・子どもの多様な学習スタイルを考慮しながら、課題の出し方を工夫する。	
【小中共通】		家庭学習習慣の確立	・各校や発達段階に応じた学習習慣を確立する ための期間・内容の設定	「私はふだん家では一日1時間以上勉強しています」と回答する生徒の割合(生徒アンケート)	80%	60%	58%	55%	69%		●学習に対する意欲が低いわけではないが、何に取り 相むにも、じっくり考える前に正答をすぐに求める傾 向があるように思われる。ネット検索が自由にできる ようになるにつれ、探せはすぐに答えも見つかり、自 分の力で毎日目やにコンコッと取り組むことが難しく なっているのではないか。	・宿贈の出し方を工夫してはどうか。「与 える」ではなく、子ども自身に自分にとっ て必要な字習方法を考えて学習できる力 を養うことが大切である。 ・中学校での指導はもちろんだが、家庭 (保護者)の協力が不可欠だと思う。	・クロムブックでのタブレットドリルや書き取り、レポートなど教科によって様々な課題が提示されている。家庭学習ともに、放課後学習など学校や学年での独自の取組が必要かもしれない。	
		小・中共通の生活習慣の徹底	- 小中合同挨拶運動の実施	「挨拶がきちんとできる」と自己評価する生 徒の割合 (学校評価生徒アンケート)	90%	96%	89%	90%	100%	А	○挟拶運動などの取組を生徒会が主体的に取り組ん でいる。 の小学校と挨拶の取組を交流したので、校区で挟拶の 賢く地域を目指していきたい。 毎、おはようによっなう」等の挨拶だけでなく、授業 はじまりの挨拶も指導を徹底していきたい。		・挨拶や礼法について、日ごろの授業や 学校生活の中で意義を伝え、必要なもの だと実際させる工夫をする。	